

2026年3月期

決算補足資料

 日本ケミフア株式会社

- 2026年5月15日
- 東証スタンダード(4539)

Contents

サマリー	2-3
損益の概況	5-6
医療用医薬品の状況	7-8
ジェネリック医薬品 発売年度別売上	9
貸借対照表	10
キャッシュ・フロー推移	11
設備投資額・減価償却費 ・1株当たり情報	12
各種指標推移	13
2026年3月期 連結業績予想	14-16

経営戦略・3つの事業ドメイン	18
イノベーションロードマップ(抜粋)	19
ジェネリック医薬品事業	20
臨床検査薬事業	21
新薬パイプラインの概況	22
新薬パイプライン詳細	23-25
アルカリ化療法	26
医療用医薬品の海外展開	27
資本コストや株価を意識した 経営の取り組み	28
キャピタルアロケーションポリシー	29

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。
したがって実際の業績等は予想数値と異なる結果となる可能性があります。

サマリー①

■売上高

＜連結売上高： 33,090百万円 前年同期比+1.6%、対通期予想 98.8%＞

- ・ジェネリック医薬品および臨床検査薬の引き続きの伸長により、薬価中間年改定の影響を吸収したうえで前年同期並みを確保したものの、通期予想はわずかに下回る結果となった。

①医療用医薬品： 25,364百万円 前年同期比+0.4%、対通期予想 99.5%

- | | |
|-------|--|
| 増収要因 | ・ジェネリック医薬品の拡販注力品の堅調な伸びと近年発売品の寄与
・長期収載品の選定療養制度に伴うジェネリック医薬品への切り替え波及効果 |
| 減収要因 | ・2025年4月に実施された薬価中間年改定（約△4%）の影響
・当社グループにおける一部品目の取り扱い終了
・主力品・新薬については、ジェネリック医薬品への置換 |
| 対通期予想 | ・導入した製品における売上計上時期の影響 |

②臨床検査薬： 5,436百万円 前年同期比+11.3%、対通期予想 99.0%

- ・ドロップスクリーンの医療機関への普及が引き続き堅調に進んでおり、国内累計設置台数は1,800台を超えた。その高い製品力から、まだまだ大きな普及拡大余地を見込む。

■利益

＜連結営業利益： 179百万円 前年同期比△70.4%、対通期予想 59.9%＞

- ・前年同期比：薬価中間年改定の影響等による原価率上昇により減益となった。
- ・対通期予想：上述の影響により、予想を下回る結果となった。

＜連結経常利益： 227百万円 前年同期比△48.6%、対通期予想 228.0%＞

- ・前年同期比減益となった一方、為替差益の計上により、通期予想を上回る結果となった。

サマリー②

■2027年3月期業績予想

<連結売上高： 35,000百万円（前年同期比 +5.8%）>

- 医療用医薬品は薬価改定の影響（約△6%）はあるものの、ジェネリック医薬品の拡販注力品や新規発売品の寄与、新薬・長期収載品において前期に時期調整が発生した取引の寄与等により前年同期比+5.2%の増収、臨床検査薬はドロップスクリーンの伸長により同+13.1%の増収を見込む

<連結利益>

- 上記増収に伴うセールスマイクスの改善効果により、薬価改定の影響や医薬品および臨床検査薬に関する研究開発費の増加、エネルギーコストの上昇等を織り込んだ上で、営業利益を250百万円（前年同期比+39.0%）、経常利益を100百万円（同△56.1%）、当期純利益を60百万円（同△69.7%）と予想する

■トピックス

<ジェネリック医薬品事業>

- つくば工場3号棟新設備での製造品を2026年5月より順次出荷開始予定、ベトナム工場への増設投資も計画している
- 2025年度は3成分8品目を発売、2026年6月にも自社開発品を含む3成分4品目を発売予定

<臨床検査薬事業>

- 「ドロップスクリーン」の国内累計設置台数は1,800台を突破、次世代の機器ならびに試薬を開発中

<新薬事業>

- NC-2800のうつ病患者を対象としたフェーズⅡa臨床試験の症例登録が2026年1月より開始
- DFP-17729の膵臓がん患者を対象としたフェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が2025年8月より開始され、国内16施設で進められている



2026年3月期決算概要

損益の概況(対前年同期)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	32,570	100.0%	33,090	100.0%	+519	+1.6%
医薬品事業	31,386	96.4%	31,868	96.3%	+481	+1.5%
内、医療用医薬品 ※1	25,271	77.6%	25,364	76.7%	+93	+0.4%
内、臨床検査薬 ※1	4,883	15.0%	5,436	16.4%	+552	+11.3%
その他	1,184	3.6%	1,222	3.7%	+37	+3.1%
売上原価	23,824	73.1%	24,693	74.6%	+868	+3.6%
販売管理費	8,139	25.0%	8,217	24.8%	+77	+1.0%
内、研究開発費	2,292	7.0%	2,134	6.4%	△ 158	△ 6.9%
営業利益	606	1.9%	179	0.5%	△ 426	△ 70.4%
公的資金繰り戻し後営業利益 ※2	939	2.9%	321	1.0%	△ 617	△ 65.7%
経常利益	443	1.4%	227	0.7%	△ 215	△ 48.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	294	0.9%	198	0.6%	△ 96	△ 32.8%

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです

損益の概況(対通期予想)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	通期予想※ ¹	進捗率
売上高	32,570	100.0%	33,090	100.0%	33,500	98.8%
医薬品事業	31,386	96.4%	31,868	96.3%	—	—
内、医療用医薬品※ ²	25,271	77.6%	25,364	76.7%	25,490	99.5%
内、臨床検査薬※ ²	4,883	15.0%	5,436	16.4%	5,490	99.0%
その他	1,184	3.6%	1,222	3.7%	—	—
売上原価	23,824	73.1%	24,693	74.6%	—	—
販売管理費	8,139	25.0%	8,217	24.8%	—	—
内、研究開発費	2,292	7.0%	2,134	6.4%	2,350	90.8%
営業利益	606	1.9%	179	0.5%	300	59.9%
公的資金繰り戻し後営業利益※ ³	939	2.9%	321	1.0%	450	71.5%
経常利益	443	1.4%	227	0.7%	100	228.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	294	0.9%	198	0.6%	150	132.0%

※ 1 2026年1月30日発表

※ 2 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています

※ 3 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです

医療用医薬品の状況(対前年同期)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
医療用医薬品(①+②)※	25,271	100.0%	25,364	100.0%	+93	+0.4%
①ジェネリック医薬品	23,968	94.8%	24,396	96.2%	+428	+1.8%
自社販売	23,589	—	23,898	—	+308	+1.3%
導出・輸出	378	—	498	—	+119	+31.6%
②主力品・新薬	1,303	5.2%	968	3.8%	△ 334	△ 25.7%
ウラリット	349	—	292	—	△ 57	△ 16.4%
その他	953	—	676	—	△ 277	△ 29.1%
ジェネリック医薬品事業(①+③)	24,784	—	25,109	—	+325	+1.3%
③ジェネリック医薬品受託	816	—	713	—	△ 102	△ 12.5%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

医療用医薬品の状況（対通期予想）

（百万円）

	2025年3月期		2026年3月期			
	通期	構成比	実績	構成比	通期予想	進捗率
医療用医薬品（①+②）※	25,271	100.0%	25,364	100.0%	25,490	99.5%
①ジェネリック医薬品	23,968	94.8%	24,396	96.2%	24,180	100.9%
自社販売	23,589	—	23,898	—	23,860	100.2%
導出・輸出	378	—	498	—	320	155.7%
②主力品・新薬	1,303	5.2%	968	3.8%	1,310	73.9%
ウラリット	349	—	292	—	310	94.3%
その他	953	—	676	—	1,000	67.6%
ジェネリック医薬品事業 （①+③）	24,784	—	25,109	—	25,000	100.4%
③ジェネリック医薬品受託	816	—	713	—	820	87.0%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

ジェネリック医薬品 発売年度別売上

(百万円)

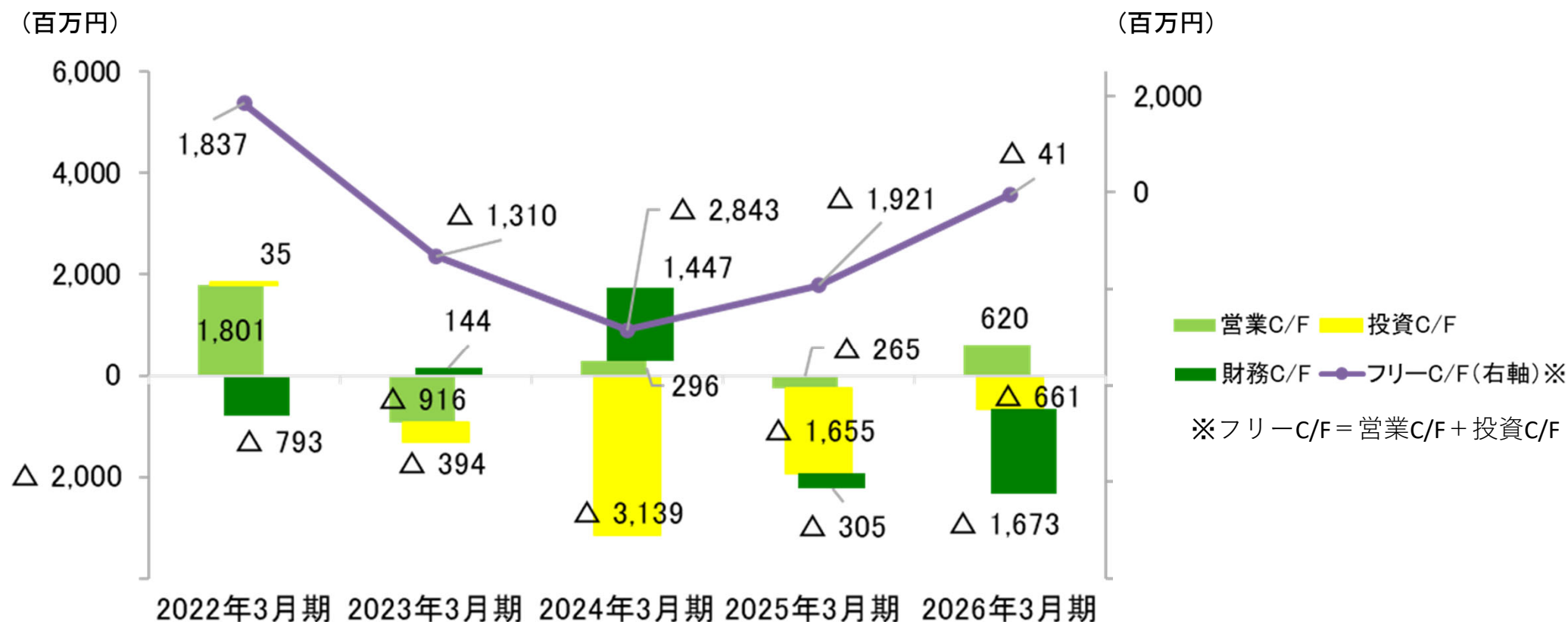
	2025年3月期		2026年3月期			主な発売品目
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	
2022年3月期以前	22,635	94.4%	22,260	91.2%	△ 1.7%	
2023年3月期	1,027	4.3%	1,169	4.8%	+13.9%	・フェブキソスタット ・エソメプラゾール
2024年3月期	168	0.7%	197	0.8%	+17.0%	・アジルサルタン
2025年3月期	136	0.6%	276	1.1%	+102.5%	・ゾニサミド ・リバーロキサバン
2026年3月期	—	—	492	2.0%	—	・グリメピリド「NC」 ・酢酸亜鉛 ・ラコサミド
合計	23,968	100.0%	24,396	100.0%	+1.8%	

貸借対照表

(百万円)

項目	2025年3月期	2026年3月期				
	3月末	3月末	増減額	主な増減項目と理由		
流動資産	30,066	29,941	△ 124	現金及び預金	△ 1,678	下請法改正に伴う支払サイト短縮の影響等
				売掛債権	△ 541	前期第4四半期増収分の資金化等
				棚卸資産	+2,260	安定供給のための原材料積み増し等
固定資産	19,785	20,037	+251			
資産合計	49,851	49,978	+127			
流動負債	12,261	12,696	+434			
固定負債	18,422	17,772	△ 650	長期借入金	△ 1,006	設備投資に伴う借入金の返済等
負債合計	30,684	30,468	△ 215			
純資産合計	19,167	19,510	+343			
負債純資産合計	49,851	49,978	+127			

キャッシュフロー推移



■フリーキャッシュフローの状況

- ・医薬品の増産体制確保のための設備投資や、新薬ならびにジェネリック医薬品等の研究開発費の増加に伴って、近年はフリーキャッシュフローがマイナスとなっているものの、つくば工場3号棟への設備投資の完了に伴い、改善傾向にある。

設備投資額・減価償却費・1株当たり情報

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		
	金額	金額	増減率	通期予想	進捗率
設備投資額	3,003	1,196	△ 60.2%	1,420	84.3%
減価償却費	1,377	1,559	+13.2%	1,690	92.3%

(円)

	2025年3月期		2026年3月期	
	金額	金額	前年同期増減	通期予想※
1株当たり純利益	81.72	54.81	△ 26.91	41.51
	3月末	3月末	前年同期増減	通期予想※
1株当たり純資産	5,312.46	5,382.52	+70.06	—
1株当たり配当金	50.00	50.00	0.00	50.00
(参考)連結配当性向	61.2%	91.2%	—	120.5%

※2026年1月30日発表

各種指標推移

	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
売上高売上原価率	74.1%	74.8%	73.1%	74.6%
売上高販管費率	26.7%	26.8%	25.0%	24.8%
売上高営業利益率	—	—	1.9%	0.5%
売上高研究開発費率	7.7%	7.6%	7.0%	6.4%
EBITDA (百万円)	1,682	1,391	2,018	2,013
流動比率(倍)	2.26x	2.31x	2.45x	2.36x
D/Eレシオ	81.0%	90.5%	87.3%	79.2%
自己資本比率	38.1%	37.3%	38.4%	39.0%
自己資本利益率(ROE)	1.8%	—	1.6%	1.0%
売上高純利益率	1.1%	—	0.9%	0.6%
総資産回転率※	64.4%	62.7%	65.5%	66.3%
財務レバレッジ	264.7%	265.8%	259.3%	255.8%
配当性向	53.2%	—	61.2%	91.2%

※ 総資産は期中平均で算出しています。

2027年3月期 連結業績予想①

(百万円)

	2026年3月期		2027年3月期		
	実績	構成比	通期予想	構成比	増減率
売上高	33,090	100.0%	35,000	100.0%	+5.8%
医薬品事業	31,868	96.3%	—	—	—
内、医療用医薬品 ^{※1}	25,364	76.7%	26,690	76.3%	+5.2%
内、臨床検査薬 ^{※1}	5,436	16.4%	6,150	17.6%	+13.1%
その他	1,222	3.7%	—	—	—
売上原価	24,693	74.6%	—	—	—
販売管理費	8,217	24.8%	—	—	—
内、研究開発費	2,134	6.4%	2,650	7.6%	+24.2%
営業利益	179	0.5%	250	0.7%	+39.0%
公的資金繰り戻し後営業利益 ^{※2}	321	1.0%	330	0.9%	+2.5%
経常利益	227	0.7%	100	0.3%	△ 56.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	198	0.6%	60	0.2%	△ 69.7%

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです

2027年3月期 連結業績予想②

(百万円)

	2026年3月期		2027年3月期		
	実績	構成比	通期予想	構成比	増減率
医療用医薬品(①+②)※	25,364	100.0%	26,690	100.0%	+5.2%
①ジェネリック医薬品	24,396	96.2%	24,700	92.5%	+1.2%
自社販売	23,898	—	24,240	—	+1.4%
導出・輸出	498	—	460	—	△ 7.6%
②新薬・長期収載品	968	3.8%	1,990	7.5%	+105.4%
ジェネリック医薬品事業(①+③)	25,109	—	25,410	100.0%	+1.2%
③ジェネリック医薬品受託	713	—	710	2.8%	△ 0.5%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

2027年3月期 連結業績予想③

(百万円)

	2026年3月期	2027年3月期(予想)	
	金額	金額	増減率
設備投資額	1,196	2,310	+93.1%
減価償却費	1,559	1,710	+9.6%

(円)

	2026年3月期	2027年3月期(予想)	
	金額	金額	前年同期増減
1株あたり当期純利益	54.81	16.60	△ 38.21
	3月末	3月末	
1株当たり純資産	5,382.52	—	—
1株当たり配当金	50.00	50.00	0.00
(参考)連結配当性向	91.2%	301.2%	—



当社の経営戦略について

経営戦略・3つの事業ドメイン

当社グループは、時間軸の異なる「ジェネリック医薬品事業」、「臨床検査薬事業」、アルカリ化療法剤を含めた「新薬事業」を3つの事業ドメインと定め、それらの事業を海外に展開することで、企業価値最大化と持続的成長を図っています。

ジェネリック医薬品事業

「質」を追求した特色あるジェネリック医薬品事業を展開する

臨床検査薬事業

アレルギー領域で培ったコア技術を軸に画期的製品群を展開し業容を拡大する

新薬事業

アルカリ化療法をはじめとする自社技術・ノウハウを核に画期的新薬を継続的に創製し収益化する

海外展開

3つの事業ドメインを海外市場に積極展開し世界で存在感を発揮するグループとなる

イノベーションロードマップ

新製品・新薬で複数のイノベーション創出に取り組み、日本ケミファグループの成長ストーリーへとつなげていきます。

事業ドメイン		取組内容	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
ジェネリック 医薬品		競争優位性のある 製品開発	開発：年間 2 品目以上の新製品を上市											
			製造能力（含む新薬）：2026年度以降24億錠～ベトナム工場増設投資後27億錠 他社連携も活用し能力強化/効率化を推進											
臨床検査薬		ドロップスクリーン 国内外市場/新領域展開	国内展開 累計設置台数 1,800台超（2025年度） / 次世代機器の投入、測定試薬のシリーズ化											
			海外への輸出開始 ～順次拡大											
新薬	アルカリ化 療法	DFP-17729 フェーズⅡ/Ⅲ試験開始	肝臓がんフェーズⅠ/Ⅱ		評価・検討		フェーズⅡ/Ⅲ開始			申請・承認・上市				
		CKD関連適応拡大検討	臨床データ解析/基礎データ追加				2024年より開始された臨床研究の成果を適応拡大の可能性につなげる							
		健康食品・ 保健機能食品等	2024年度に1品目上市済					健康食品等2品目の上市			健康関連商品順次上市			
	アルカリ化 以外	NC-2800 フェーズⅡaの開始と導出	オプション契約	AMED CICLE事業によるフェーズⅠ				フェーズⅡaの開始		導出先によるフェーズⅡb/Ⅲの実施				
		NC-2500 新規適応による導出	導出先による中国での開発推進								痛風／高尿酸血症以外の適応症での導出活動を継続			
		NC-2600 適応を広げての導出	神経障害性疼痛/慢性咳嗽/炎症性腸疾患等をターゲットとした早期の導出								導出先による臨床試験の実施			
		NC-2700 導出活動継続								早期の導出による収益貢献				
		DFP-14323 フェーズⅢ実施	肺がん フェーズⅡ完了				フェーズⅢ実施				申請・承認・上市			
		新規候補化合物の創製	新規テーマ創出とリード化合物の創製・最適化							前臨床/導出		継続してテーマを創出		
	海外展開		製品輸出と 現地開発/製造	ASEAN・中国・中東・アフリカ 4か国8品目（2025年度）→ 5か国14品目（2028年度） 販売国・品目数の拡大										

ジェネリック医薬品事業

引き続き自社グループにおける製造能力強化とともに、さまざまな企業と連携を図ることで生産効率を高め、安定供給体制を強化していきます。また、競争優位性のある品目を継続的に上市するとともに、品質保証体制の継続的な強化も図っています。

＞安定供給体制のさらなる強化

- 日本薬品工業株式会社つくば工場3号棟の新設備での製造品を、2026年5月より順次出荷開始
- ベトナム工場の増設投資実行による、さらなる自社グループでの増産体制強化
- 従来より進めてきた個別企業間連携に加えて、「新・コンソーシアム構想」にも参画し、製品の生産拠点集約を進める

自社グループ製造キャパシティ強化

企業間連携を通じた生産効率の向上

安定供給体制を確保

＞競争優位性のある品目の継続的な上市

- 2025年度に自社開発品およびオーソライズド・ジェネリック(AG)を含む3成分8品目を発売、2026年6月にも3成分4品目を発売予定
- AGの薬価上の位置付け変更に対応し、さらなる開発体制の強化に着手

＞品質保証体制の継続的な強化

- グループ内製造所およびグループ外の製造委託先や原薬製造所に対し、定期的な各種法令等の遵守状況確認による製造管理および品質管理の実施
- 品質・製造に関する手順と承認書との整合性点検の継続的实施

臨床検査薬事業

ドロップスクリーンの国内累計設置台数は1,800台を突破しました。設置台数のさらなる増加に向けて販売体制を拡充するとともに、次世代機器の開発や海外展開の準備を進めています。

>ドロップスクリーンの取り組み

製品特長

- ・ 注射器採血が不要で、1滴の血液から41項目のアレルゲンを30分で測定可能
- ・ 従来アウトソーシングが主流であったアレルギー検査の医療現場での実施を実現し、新しい市場を創成

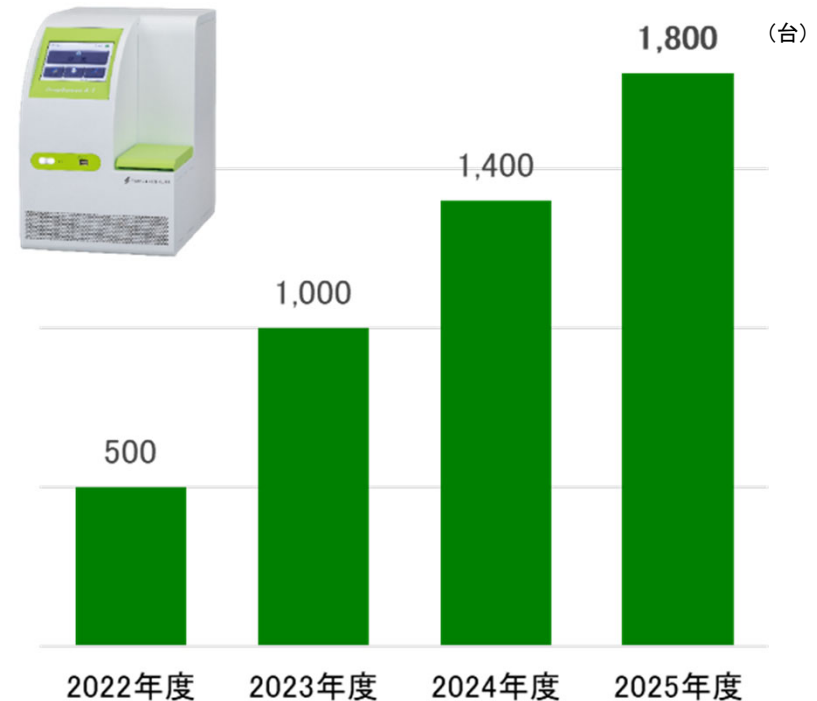
国内での普及拡大

- ・ 当社医薬営業部門によるプロモーションサポート、卸との連携強化による認知度向上策を実施
- ・ 学会展示やKOLとの関係強化を通じて製品価値の浸透を図る

さらなる展開

- ・ 次世代機器および試薬の開発を進めている
- ・ 米国、欧州、東南アジアなどでの展開を視野に入れた製品開発や各国の法規制対応、パートナー候補企業との協議を進めている

>ドロップスクリーン累計設置台数推移



新薬パイプラインの概況

NC-2800はフェーズⅡa臨床試験の症例登録が進められています。DFP-17729は2025年8月にフェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が開始されました。DFP-14323はフェーズⅢが進行中です。

■ 自社開発 ■ 他社とのアライアンスによる開発 ■ 導出先において開発中

2026年3月末時点

開発番号	作用機序 (ターゲット)	前臨床	フェーズ Ⅰ	フェーズ Ⅱ	フェーズ Ⅲ
NC-2500	XOR阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■	■	■	
NC-2600	P2X4受容体拮抗薬 (疼痛・咳嗽・炎症性腸疾患)	■	■		
NC-2700	URAT1阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■			
NC-2800	δオピオイド受容体作動薬 (うつ・不安)	■	■	■	
DFP-17729	がん微小環境改善剤 (膵臓がん)	■	■	■	■
DFP-14323	抗がん剤候補化合物 (非小細胞肺癌)	■	■	■	■
カルバン	$\alpha_1\beta_1$ 遮断剤 (ハンチントン病他)			■	

新薬パイプライン詳細－自社開発①

NC-2500 (XOR 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	導出先企業
フェーズ I 終了	痛風・高尿酸血症	当社	南京寧和衡信製薬有限公司(中国)
特徴	その他		
<ul style="list-style-type: none">・XOR阻害作用により尿酸生成を抑制する。・フェーズ I において、血中尿酸値を徐々に低下させることで、治療中に生じる急性痛風発作の問題改善につながる可能性が示唆された。	<ul style="list-style-type: none">・2023年に痛風・高尿酸血症を対象に南京寧和衡信製薬有限公司とライセンス契約を締結、中国国内での治験実施に向けた準備が進められている。・神経変性疾患への効果を示す基礎データが得られており同疾患をターゲットとした展開も検討中。		

NC-2600 (P2X4 受容体拮抗薬)

赤文字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズ I 終了	神経障害性疼痛・慢性咳嗽・炎症性腸疾患	当社を含む2者共同研究	非開示
特徴	その他		
<ul style="list-style-type: none">・P2X4受容体を抑制するというユニークな作用機序を有する。	<ul style="list-style-type: none">・in vivo試験で慢性咳嗽に対する有効性が確認され、味覚障害などの副作用がない新しい機序の治療薬として可能性を探る。・2024年7月にイタリアのピサ大学から炎症性腸疾患に対し、同年10月には鳥取大学から子宮内膜症に対し、効果が期待できる論文が発表される。・国内外で積極的な導出活動を展開中。		

新薬パイプライン詳細－自社開発②

NC-2700 (URAT1 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
非臨床終了	痛風・高尿酸血症	当社を含む3者共同研究	—
特徴		その他	
・URAT1阻害作用により、尿酸の体外への排泄を促進する。		・酸性尿の改善効果がin vivo試験で確認されており、既存薬の課題である尿中での尿酸結晶析出による腎結石や腎毒性のリスクを低減させる可能性を有している。	

NC-2800 (δオピオイド受容体作動薬)

赤文字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズⅡa	うつ・不安	当社を含む4者共同研究	住友ファーマ株式会社
特徴		その他	
・δオピオイド受容体をターゲットとし、モノアミン仮説を基にした既存薬とは異なる作用機序を介して情動を調節し、安全性と有効性のバランスに優れていることが示唆されている。		・2017年度のAMEDの医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)に採択。 ・2023年度にフェーズⅠ終了、2024年10月にその結果を含むマイルストーンに対しAMEDからプログラムの継続承認を得る。 ・2026年1月より、うつ病患者を対象としたフェーズⅡa臨床試験の症例登録が開始された。国内27施設において、登録が進められている。	

新薬パイプライン詳細－導入

DFP-17729（がん微小環境改善剤）

赤文字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅡ／Ⅲ	膵臓がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・微小環境をアルカリ化することで、がん細胞の活動が抑制され、併用する抗がん剤の効果が出やすくなる。		・2020年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権と国内で販売するための独占的製造権を獲得している。 ・ フェーズⅡ／Ⅲ試験の症例登録が国内16施設で進められており、2026年7月頃にはフェーズⅡ部分の症例登録が完了する見込み。 ・膵臓がんについては2028年ごろには承認申請できるものと期待しており、将来的には他のがん種への適応拡大も検討していく。	

DFP-14323（抗がん剤候補化合物）

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅢ	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・アミノペプチダーゼNと結合することで、がん患者の免疫応答を強め、標準的な抗がん剤の投与量を減らした上で、副作用を増強することなく効果を高めることが示唆されている。		・2022年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権を獲得している。 ・2024年2月よりフェーズⅢが開始され、国内約30施設で症例登録が進行中。 ・2029年ごろまでには承認申請されるものと期待している。	

アルカリ化療法

「ウラリット」で長年培ったアルカリ化に関する技術や知見を活かして、がんや慢性腎臓病（CKD）、健康食品等、幅広い用途での展開を図っています。

> アルカリ化療法の応用

がん

がん微小環境改善剤

- ・DFP-17729は膵臓がんを対象として開発中
- ・国内16施設でフェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が進められており、2026年7月頃にはフェーズⅡ部分の症例登録が完了する見込み

抗がん剤誘発性末梢神経障害の予防・治療

- ・富山大学と実施した共同研究の成果が2025年4月に学術誌へ掲載された

CKD

慢性腎臓病進展抑制

- ・2024年7月より名古屋大学において医師主導臨床研究が開始され、症例登録が進行中

食品

健康食品・保健機能食品

- ・これまでの研究で得られた成果をもとに、健康食品等としての製品化や、さらなるエビデンス取得を目指して取り組んでいる

医療用医薬品の海外展開

ベトナム工場での製造品目が順調に拡大しているとともに、海外での販売についても、各国での販売品目および販路拡大の取り組みを進めています。

＞ ベトナムでの取り組み

- 当社グループの海外生産拠点であるNippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd.のベトナム工場では、同工場のコスト競争力を活かせる品目を中心に国内工場からの製造移管が進んでおり、追加の設備投資も計画している。
- 2026年3月末時点で自社グループ製販品9製品の製造を行っており、他社製販品の製造受託数も拡大している。
- 同拠点を足掛かりに販売チャネル開拓も一層強化しており、ベトナム国内で現在2品目販売中、1品目（2026年3月に承認を取得した高尿酸血症治療剤「アロプリノール錠100mg」）販売準備中。

＞ 海外での販売状況

- 2026年3月末時点でベトナムを含む4カ国において8品目を販売中。2028年度までに5カ国14品目の販売を目指す。
- 中東およびアフリカ市場への展開に向け、進出を図る対象国およびパートナーを絞り込み、現地で販売する具体的な複数品目について交渉を進めている。
- ベトナムで承認を取得していた高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット錠80mg」が国立医大病院で落札され、2025年6月に卸へ初出荷された。

資本コストや株価を意識した経営の取り組み

時間軸の異なる3つの事業ドメインを同時に推進し、持続的成長と企業価値の最大化を実現します。

事業ドメイン	目標	取り組み状況
ジェネリック医薬品事業	将来にわたる安定的収益基盤へ転換 <ul style="list-style-type: none">ベトナム工場・国内基幹工場活用と他社連携による製造数量アップ/製造効率化/原価低減新製品投入による売上・利益拡大	<ul style="list-style-type: none">つくば工場3号棟2階新設備の稼働を開始製造移管が進むベトナム工場に追加投資を予定2025年度に3成分8品目を発売AGの薬価上の位置付け変更に備え、さらなる開発体制の強化に着手
臨床検査薬事業	引き続き当社グループ収益拡大に貢献 <ul style="list-style-type: none">ドロップスクリーン国内累計設置台数のさらなる嵩上げドロップスクリーン次世代機器投入、海外進出	<ul style="list-style-type: none">DS累計設置台数1,800台を突破DSシリーズとして次世代機器と試薬を開発中複数の海外企業から引き合いを受け、具体的な協議が進んでいる
新薬事業	収益化を開始、中長期的な成長ドライバーへ <ul style="list-style-type: none">住友ファーマ社によるオプション権行使導入新薬2品目の上市	<ul style="list-style-type: none">NC-2800のフェーズⅡa臨床試験の症例登録が進行中DFP社から導入したパイプラインの開発も進む
指標	ROE:8.0%以上／PBR:1.0倍以上	ROE:1.0%／PBR:0.3倍（2026年3月期末）

キャピタルアロケーションポリシー

経営全般の効率化を進め収益力の向上と財務体質の強化を図りつつ、持続的成長に必須の投資を効果的に行った上で、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

Cash Inflow	Cash Outflow	
営業キャッシュフロー	成長投資	人材育成 キャリア形成を後押しする研修の実施、チャレンジを後押しするための社内ファンド提供、労働環境保全策の拡充
	開発投資	<ul style="list-style-type: none">● 特色あるジェネリック医薬品の開発● 臨床検査薬事業におけるアレルギー検査次世代機器や新領域製品の開発● 新薬パイプラインのステージアップ
	設備投資	国内外工場と研究所設備の維持・更新・増強投資
保有資産売却	財務基盤強化	負債圧縮
	株主還元	安定的かつ継続的配当の実施

本資料に関するお問い合わせ先
日本ケミファ株式会社 経営企画部(広報チーム)
Tel 03-3863-1211 E-mail ir@chemiphar.co.jp

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。
したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。